

苗場山麓 ジオパーク

Vol. 54

振興協議会だより

【発行日】令和4年4月26日
【発行】苗場山麓ジオパーク推進室
【お問い合わせ】025-765-1600



2021年度・津南小学校4年生の大作です！苗場山麓ジオカード第2弾が出来ました

令和3年度、津南小学校4年生のみなさんは、はばたき学習（総合的な学習）でジオパーク学習に1年間取り組んできました。活動を振り返ると、計7回のジオサイト調査ツアーで現地へ行き、津南町・栄村のジオサイトの魅力を五感で学び、一人一人が「苗場山麓ジオタイムス」という新聞を作り、このエリアだけでなく、長野県の南アルプスジオパークの4施設や、新潟県の糸魚川ジオパーク2施設、佐渡ジオパークのある佐渡市役所などで、新聞の掲示を協力していただき、発信活動の幅を広げました。子どもたちはジオパーク学習の集大成として「苗場山麓ジオカード・第2弾」を作成しました。前回の第1弾は、シークレットカードを含めて全16種類作成し、とても好評で、大勢の方に苗場山麓ジオカードを手にしていただきました。

今回は全20種類（シークレット含む）で、新たなオリジナルキャラクターも仲間入りしています。カードは、ジオサイトの情報を中心に、クイズやじゃんけんをして楽しめます。このほかにも、新しい仕掛けが追加されています。また、カードの裏面が水色と黄色に分かれていて、水色（裏面）のカードは5か所（なじもん等）で無料配布しています。黄色（裏面）のカードは、苗場山麓ジオパーク認定商品「大地のたからもの」に登録されているお店の商品を購入したり、料理を食べたり（※宿泊者限定もあり）するともらえるコラボカードです。シークレットカードは、フリーカード5種とコラボカード5種をなじもんの窓口で持参すると手に入ります（先着180枚）。前回とは一味違うアイディア豊富な「苗場山麓ジオカード」を集めて、苗場山麓ジオパークを巡ってみてくださいね。



ホームページ

●詳細は苗場山麓ジオパークのホームページ（<https://naeba-geo.org>）、チラシ、認定商品については、パンフレット（大地のたからもの）をご確認ください。



パンフレット



大地のたからもの～苗場山麓ジオパーク特産商品ご紹介⑧～



【かてぜ】※宿泊した方に提供しています

越後田中温泉 しなの荘 〒949-8205 新潟県津南町上郷 ☎025-765-2442
8:00～22:00 ㊿無休（不定休期間有り）

ジオストーリー

郷土料理というには簡単すぎる「かてぜ」の材料は、ダイコン、オクラ、野沢菜などその時にある野菜です。おいしさの秘密は大地の恵みをたっぷり吸った旬の野菜を採れたてで使うこと。現地でしか味わえない旬の味です。

※苗場山麓ジオパーク振興協議会・商品開発部会事務局では、新規商品の申請について、随時ご相談を受け付けております。
お問い合わせ 津南町役場観光地域づくり課 電話025-765-5454



〈再審査に向けてひた走る室長日誌4〉

苗場山麓ジオパークにおける活動は、津南小学校の持続的なフィールドワークを含めた「ジオ学習」の展開です。

平成26年度に模索しながら津南小学校でジオ学習を始めた時の6年生は、自ら地域を歩き調べ、まとめ発表する一連の活動を進める中、テーマ曲とキャラクター作成を進めた児童でした。特にテーマ曲「Takaramono-苗場山麓ジオパークPRソング」の発表会において初めて聞いたワンフレーズにある「津南はただの田舎じゃないのさ 僕らが津南の未来を創る」という歌詞は、当時の町長や教育長の目頭を熱くしました。

その発表会からすでに6年が経過し、彼らは18歳になり、昨年4月から各々が、未来に向けて勉学に励む青年期を迎えています。彼らを第1期生と数え、毎年、ジオパークを学び、故郷に愛着と誇りを持つ児童が輩出されていることに誇りに思います。

また、このたび津南中等教育学校に進学した児童が3年生になり「津南妻有学」の郷土学習において発表グループ^{ネクサス}Nexusは、第7回高校生国際シンポジウムに参加し、災害と防災をテーマにプレゼンテーションした結果、国際経済分野で最優秀賞に輝きました。これは素晴らしいことであり、嬉しい出来事でもあります。その礎に小学生の時のジオ学習があると確信しています。

さらに、令和3年度の津南小学校4年生は、自らがジオサイトを探訪し、ジオカードを作成し、ジオパーク商品開発部会とのコラボレーションで苗場山麓ジオパーク認定商品を購入または飲食するともらえる「コラボカード」を配布し、地域に貢献しています。また、ジオパーク関連施設に訪れるとフリーカードがもらえ、そのフリーカード5種類とコラボカード5種類を集めるとシークレットカードが1枚もらえるというルールを作り、新年度に向かい展開を始めました。

さらにさらに、この4年生の中の児童がジオ学習の延長上で学びを深め、大人の受検者に混って「ジオガイド認定検定」を受け、見事に合格しました。学校では、「ジオパーク大使」と呼ばれているようです。どちらにしても郷土を知り、誇りを醸成する学びの力といえます。

このように小学校を中心としたジオ学習の成果は、「人づくり」であり、時間は掛りますが、大きな力として地域に確実に舞い降りる火の鳥です。

新たに観光部局に叩き台としての「ジオラフティングの運用計画案」と「苗場山麓ジオパーク：災害学習施設運用計画案」を掲示し、積極的な協議を始めました。

ジオラフティングは、すでに2年間の検討と試運転を行い、いよいよ新年度から運用に入る予定であ

り、まずは新潟県内3ジオパーク（糸魚川・佐渡・苗場山麓）の研修会でジオラフティングを通して、信濃川が侵食した古い地層の観察とスリリングなアクティビティを体験するコラボ事業を行います。

また、栄村秋山郷観光協会との懇談を行い、長野県北部地震の震源地である中条川崩落地近傍の「トマトの国温泉施設」を災害学習宿泊施設として活用することはできないかというテーマを掲げ、震災復興祈念館「絆」を拠点に、栄村役場近傍の千曲川川辺の断崖地形観察サイトと散策道を含めた面的な整備を進め、内陸盆地型の災害学習ルートを整備する構想を立てています。多難なハードルでしょうが、ジオパーク活動の本質を探り、立場を越えて語るステージを作りたいものです。このたよりが届く時は、令和4年度が始まり、6月の総会に向けての準備と再審査に向けて提出する報告書執筆に向き合っていると



中条川上流の崩壊地形を見学し防災学習を行う様子



中条川上流の崩壊地形

認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。



桑原 悠さん

念願の氷山登山（ガイド No.44 津南町長・桑原 悠さん）

新型コロナウイルス感染症の流行で、生活が大きく変わり、やりきれない思いや疲労が溜まっていた頃、早稲田大学の先輩である十日町市“きもの絵巻館”の吉澤政敏さんが「氷山に登らないか？」と声をかけてくださいました。私は以前から、登山家でもある吉澤さんに「氷山と一緒に登ってほしい」と話していて、昨年、ようやく実現しました。

7月25日、あまり暑くならないうちに朝7時に出発。普段運動不足の私を心配して、後ろから外丸住民の福原吉重さんが「またの名を“こたつ山”と言わんだぞ。台形だべ？」と言いながら付いてきてくださり、往復3時間の行程でした。木陰もあり、歩きやすかったです。地域住民の皆さんが、たびたび登山道を整備して、楽しめるような配慮もされていることを知り、とてもありがたく感じました。熊などには気を付けないといけませんが、安全に登れる山です。

眼下に広がる津南町の河岸段丘の眺望を満喫してきました。弥彦山と坂戸山が標高634m。それよりもやや高い674m。「もっと有名になっても良い山だね」と言いながら下山しました。夏はぜひ氷山へ！をPRしたいと思います。





アマチュア無線日本ジオパークアワード代表 熊谷俊一様より苗場山麓をご紹介いただきました

行ってみました苗場山麓ジオパーク

アマチュア無線日本ジオパークアワード代表 熊谷 俊一

苗場山麓ジオパークは実に魅力的な地域です。雪景色の苗場山山頂で撮影した天の川の写真が冬の間、日本ジオパークネットワークのホームページで公開されていました。とても美しい写真で感動的でした。

日本百名山の一つ、苗場山の名前をいただく地域には以前から興味がありました。特に関心をもったのは、県境を跨いだ二つの町村で構成されているということです。複数の県で一緒に活動するジオパークは多くはありません。もう一つ不思議に思ったのは、日本一長い川、信濃川です。新潟県では信濃川ですが、長野県では同じ川なのに千曲川と呼んでいます。これもそう多い事例ではありません。

最初におじゃましたのは、道の駅「信越さかえ」です。何と言っても目立つのは火焰型土器です。次に気が付いたのは、売っている山菜が多種多彩なことです。驚くほどたくさんの山菜が並んでいました。太古の昔から、豊富な山の幸を有効利用していることが分かりました。道の駅のすぐとなりが県境で、橋があったので上流側（千曲川）と下流側（信濃川）の写真を撮りました。同じ川を違う名前と呼んでいるのは県同士の仲が悪いからかと思ったのですが杞憂でした。長野県内では曲がりくねっているのが千曲川、新潟県内では、信濃から流れてくるので信濃川と呼んでいるということを知り、新潟県では信州をリスペクトしていたんですね。私の中の評価が上がりました。その後、森宮野原駅の最高積雪の標柱を見て、津南町に入りました。

津南町では、「空の展望台」から河岸段丘がよく見えました。苗場山のなだらかな曲線もきれいでした。布岩山の柱状節理も見事でした。溶岩が固まったんですね。国道405号からは、龍ヶ窪のある台地との段差がよく分かります。高いところに湧き水と温泉もあるのだから不思議です。津南町にも火焰型土器がありました。訪れた当時は、「なじよもん」と「龍ヶ窪」、「竜神の館」は新型コロナウイルス感染症対策のため休館中であり、入ることができず残念でした。

私は、アマチュア無線愛好家で、無線の交信に応じて賞状のようなもの、アワードを発行し、日本全国のジオパークを巡っています。今度は、苗場山登山をしながらおじゃましたいと思っています。



熊谷 俊一氏



突撃しよう!となりのジオ便り～三笠ジオパークからこんにちは～(三笠ジオパーク 上口 壮太)

三笠ジオパークは、北海道の中央部に位置し、羽田空港から2時間、札幌から40分、新千歳空港から車で約1時間に位置するアクセス良好な場所です。また、北海道の人気観光地である旭川市、富良野市にも近く、立ち寄りにおすすめです。

三笠ジオパークの地層の特徴として、石炭が産出する約5,000万年前の新生代の地層と約1億年前の白亜紀のアンモナイト化石などが産出する地層があります。この大地の遺産である石炭の発見により明治時代から発展したまちであることが特徴です。そのため、三笠ジオパークでは、アンモナイトが泳いでいた1億年前から、石炭の発見以後、炭鉱まちとして栄えた現在まで、「1億年時間旅行」を、「見て・学んで・食べて・触って」などの5感を通して体験することができます。これらを気軽に楽しめるジオツアーを実施しており、毎年5月頃にスケジュールを公開し、申込みを開始します。ジオツアーでは地層とのつながりが分かるように解説しながら、ラフティングなどのアクティビティを通じて体験するほか、アンモナイトの近縁種であるイカを解剖しアンモナイトの秘密を解き明かすツアー、林業体験など学びに重きを置いたツアーも実施しています。

また、近年では北海道の大地の成り立ちが学べる場所として、道内外から学校が来訪し教育旅行が大幅に増加しています。特におすすめしている部分は三笠市立博物館、野外博物館です。三笠市立博物館は、日本一のアンモナイト博物館としても知られています。

また、明治から100年以上にわたって行われた石炭採掘の歴史などの展示も行っています。今回は、WEB上で館内見学が出来るようにQRコードを添付していますので興味がある方はぜひご確認ください。

野外博物館は、三笠市立博物館の裏手にある1.2kmの散策路で、地層、石炭、炭鉱遺構など実物を見ながら三笠ジオパークにとって重要な要素を余すことなく楽しむことができます。ふるさと納税返礼品として、これらの三笠の大地の魅力を体感できるプライベートツアーも出品しておりますので、ぜひご確認ください。

また、三笠の大地の恵みとして、三笠の特産品であるメロン、スイカ、ワインなども出品しており、食により三笠を体感することもできますので、こちらも併せてご確認ください。

ここでは紹介しきれない見どころが沢山ありますので、実際に来て、様々なプログラムへの参加をお待ちしております。



三笠市立博物館



幾春別川でのラフティングの様子



博物館化石展示室



博物館人文展示室

●マーターポート（360度の3Dカメラ）
WEB上で三笠市立博物館を見学できます！